

防災対策推進検討会議中間報告（抜粋）

平成24年3月7日

中央防災会議 防災対策推進検討会議

第2章 東日本大震災から学ぶもの

2. 災害応急対応はうまく機能したのか

（男女共同参画の視点）

- 避難所の運営等、災害現場での意思決定に女性がほとんど参画していなかった。
- 女性の視点がないために、女性用の物資が不足したり、女性専用の物干し場、更衣室、授乳室が設置されないなど、女性が避難生活に困難を抱えていた。
- 避難所や仮設住宅等に女性のリーダーが少ないため、男女のニーズの違いを踏まえた対策が不十分であった。
- 長引く避難生活や生活不安などの影響により、女性に対する暴力の増加や男性の孤立化の懸念が生じた。

第3章 「ゆるぎない日本」の再構築を目指して

4. スピード感、安心感がある被災者支援

⑥ 男女共同参画の視点の重視

- 発災直後の避難、物資の備蓄、確保・輸送、避難所の設置・運営、応急仮設住宅、復旧・復興、まちづくり、防災等の各段階において、男女共同参画の視点の重視に関する地方公共団体の責務を明確化するとともに、女性や子育て家庭のニーズに配慮した被災者支援、復旧・復興、防災等における対応についてのマニュアルを作成すべき。
- 地域防災計画、地域復興計画や避難所運営等の意思決定の場に女性が参画できるよう、地方防災会議の構成等について見直しを行うべき。
- なお、意思決定の場に女性を増やそうとしても、職務指定の関係上困難な場合があるため、改善を図るべき。

（※）防災対策推進検討会議中間報告から抜粋したもの。上記の他、妊産婦等の災害時要援護者についても記述がある。